

# 沿岸漁況海況予報調査（昭和41年度）

山崎 廉三 小林 啓二  
西山 勇二

前年度にひきつづき、沿岸漁況海況調査を実施した。

## 調査方法

### 沿岸定点観測

試験船第2鳥取丸（19.86トン，D100PS乗組員4名）を使用して，図1に示す定点について表1のとおり調査した。

調査項目 気象（天候，風向，風力，気温，気圧，雲量），海象（透明度，波浪，ウネリ）  
0，10，20，30，50，75，100，150，200mの各層の水温，塩素量，魚群の  
状況

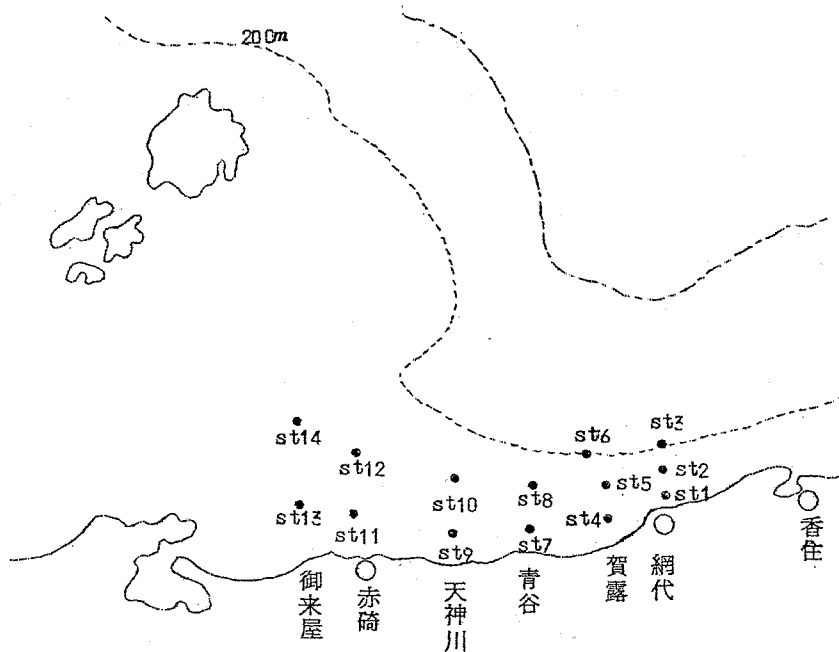


図1 沿岸定点観測位置図

定点位置

st 1	N35°36'	E 134°17'
st 2	N35°40'	E "
st 3	N35°44'	E "
st 4	N35°35'	E 134°10'
st 5	N35°39'	E "
st 6	N35°43'	E 134°06'
st 7	N35°34'	E 134°00'
st 8	N35°40'	E "
st 9	N35°34'	E 135°52'
st10	N35°41'	E "
st11	N35°35'	E 133°46'
st12	N35°45'	E "
st13	N35°36'	E 133°29'
st14	N35°46'	E "

表1 沿岸定点観測実施状況

調査年月日	船名	測点数	欠測点数	調査員氏名	備 考
41. 4.28	第二鳥取丸	6	8	小林啓二	
5.10~13		14	0	西山勇二	
6. 2~3		13	1	"	
7.20~21		13	1	"	
8. 9~10		14	0	"	
9. 6~9		14	0	"	
10. 1~2		14	0	"	
11. 4~5		14	0	"	
12. 8		4	10	"	
42. 1.25		7	7	"	
2.		0	14	"	
3.17		8	6	"	

漁海況速報状況

速報発表月日	主なる配布先	対象魚種	備考
4月	官公庁		
5月16日	水産課, 漁業改良普及員	スルメイカ・シロイカ	
6月9日	農林省統計調査事務所	トビウオ・ハマチ	
7月	業界	シイラ・タイ・ヨコワ	
8月16日	東, 浦富, 田後, 網代港	キス等沿岸漁業	
9月16日	福部, 賀露, 酒津, 浜村	対象魚種	
9月30日	夏泊, 青谷, 泊, 赤碕		
10月13日	御来屋, 淀江, 米子市		
11月16日	弓北漁業協同組合		
12月21日	県漁業協同組合連合会		
1月20日	同連合会境支所		
2月15日			

調査結果

4月：表面水温は16℃台，水深50m層の水温は14℃台で，表面水温は例年に比べ2～3℃高目，50m層で1～2℃高目

5月：表面水温は全般に16～17℃台，水深50m層は15℃台，水深100m層は10～15℃台であった。特徴としては，前年同期に比べ高目，水深100m層の水温が天神川以東で13～15℃台で例年に比べ1～2℃の高目あるのに，天神川以西が10～15℃台で例年に比べ1～2℃低目（隠岐島北方冷水の影響と見られる）

6月：表面水温は17～18℃，50m層16℃，水深100m深で10～15℃，特徴としては50m深の水温が東部（網代～賀露港）で14～15℃で例年に比べ1～2℃低目であるのに，中西部沖は16℃台で平年並かやや低目，水深100m深についても同様東部沖が2℃低目を示している。

7月：表面水温は23℃台，水深100m層も18～21℃台で全般に昨年より高目に推移した。

8月：表面水温は27～28℃，100m層は15～17℃台，特徴としては兵庫県沖合にある冷水域が強勢となり，その活端が，東中部沖合に張り出し沿岸暖流を圧迫し，暖流の蛇行性が大きくなった。

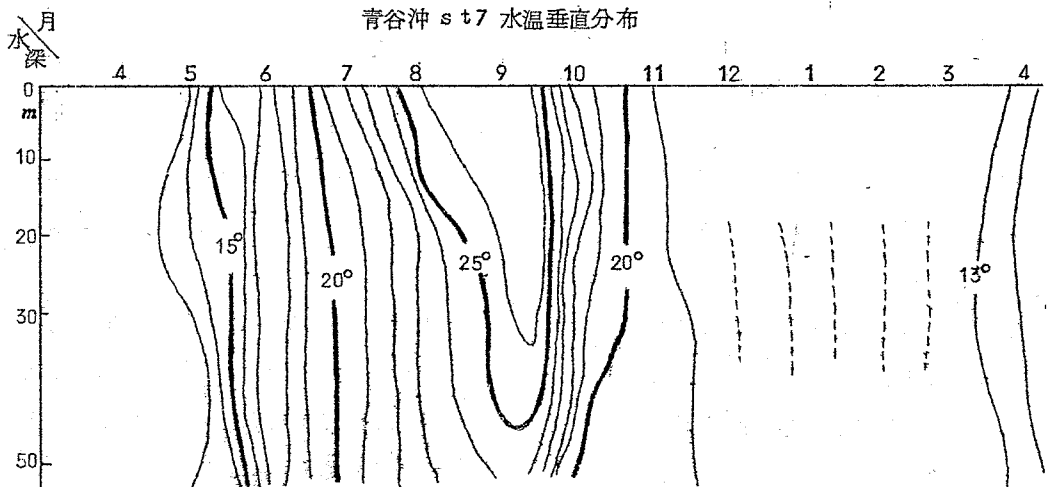
- 9月：表面水温は26～27℃台、水深100m層では16～18℃台で、特徴としては昨年  
 比べ東部沖合は低目、西部沖合は逆に高目となった。
- 10月：水温の下降期に入り全般に水温が低下した。表面水温は21～22℃台、水深100m層  
 は16～17℃台、網代沖の水深200m層では150m層の水温よりも高くなっており  
 上層下層の垂直混合が活発に行なわれ始めた。
- 11月：表層から中層にかけての垂直混合が活発となり水深50m層まではほとんど温度差がみら  
 れず19～20℃台、水深100m層では15～18℃台、特徴は水深100m層の水温  
 が昨年よりもやゝ高目であった。
- 12月：表層から水深100m層まではほとんど温度差がなく15℃台
- 1月：表層から水深100m層まで12～13℃台
- 2月：欠測のため不明
- 3月：表層から水深100m層までは温度差が認められず11～12℃台、特徴としては表層か  
 ら水深30m層までは東部海域が低目となっているが、水深50m層は逆に高目となった。

### 海況の特徴

6月の水温は東部海域で前年より1～2℃低目、西部海域では平年並みかやゝ低目を示したが、  
 全般的に春～夏期にかけて前年よりも高目に経過した。夏期以降は冬期に至るまでほぼ前年ど  
 りの海況であった。

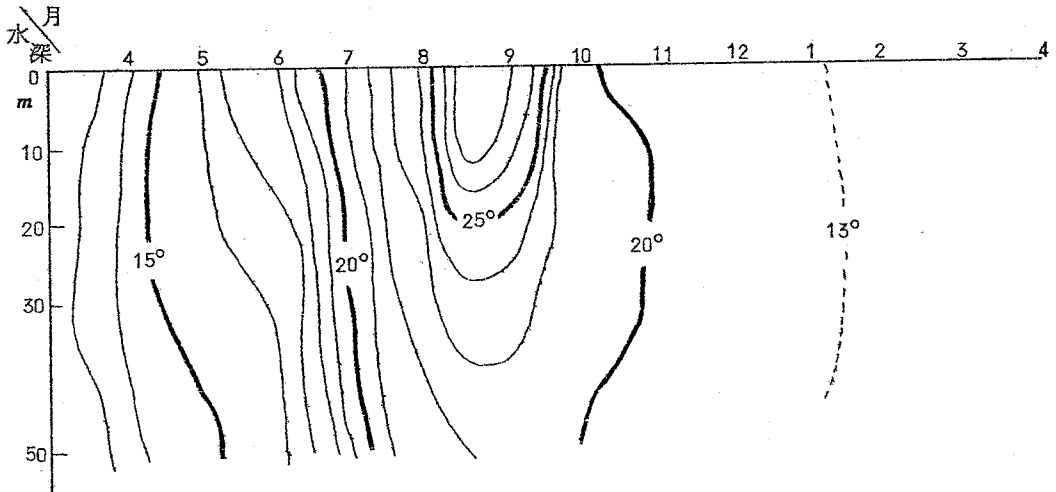
青谷沖のst7及び網代沖st3における水温の垂直分布は次のとおりである。

(図2-1) 昭和40年4月～昭和41年3月までのST7-ST3の水温垂直分布



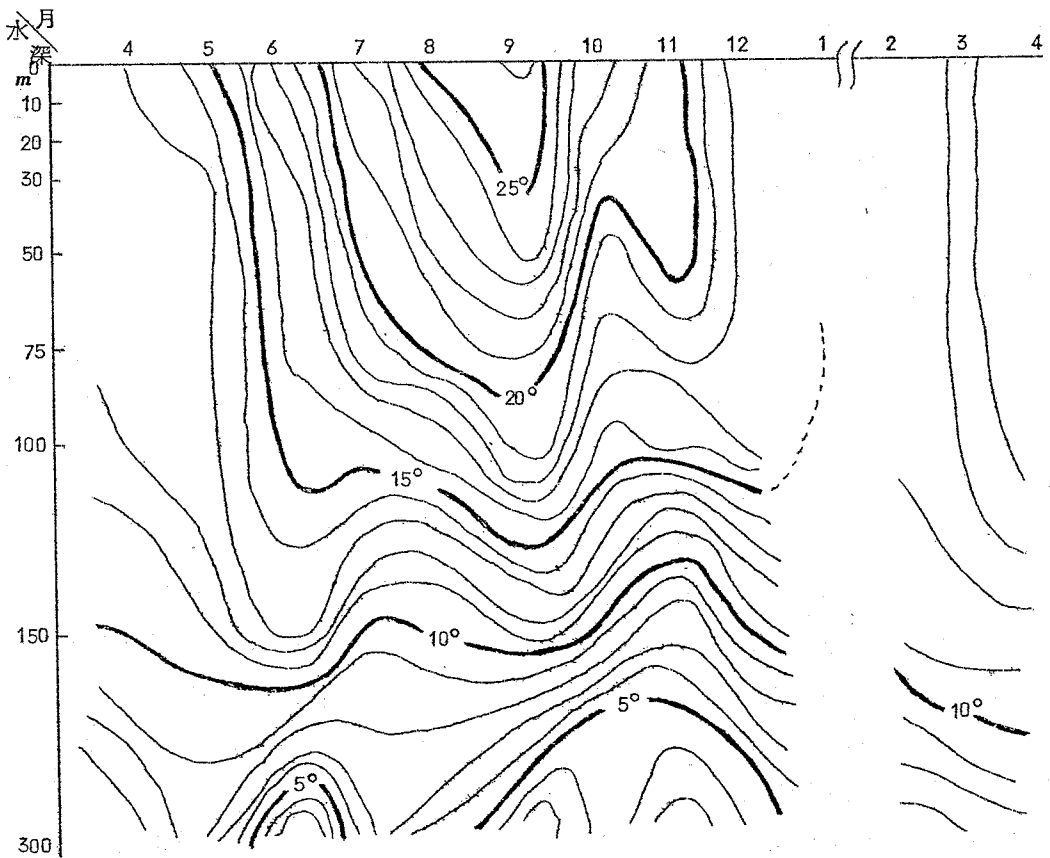
(図2-2) 昭和41年4月~昭和42年3月までのST7, ST3の水温垂直分布

青谷沖 st7 水温垂直分布



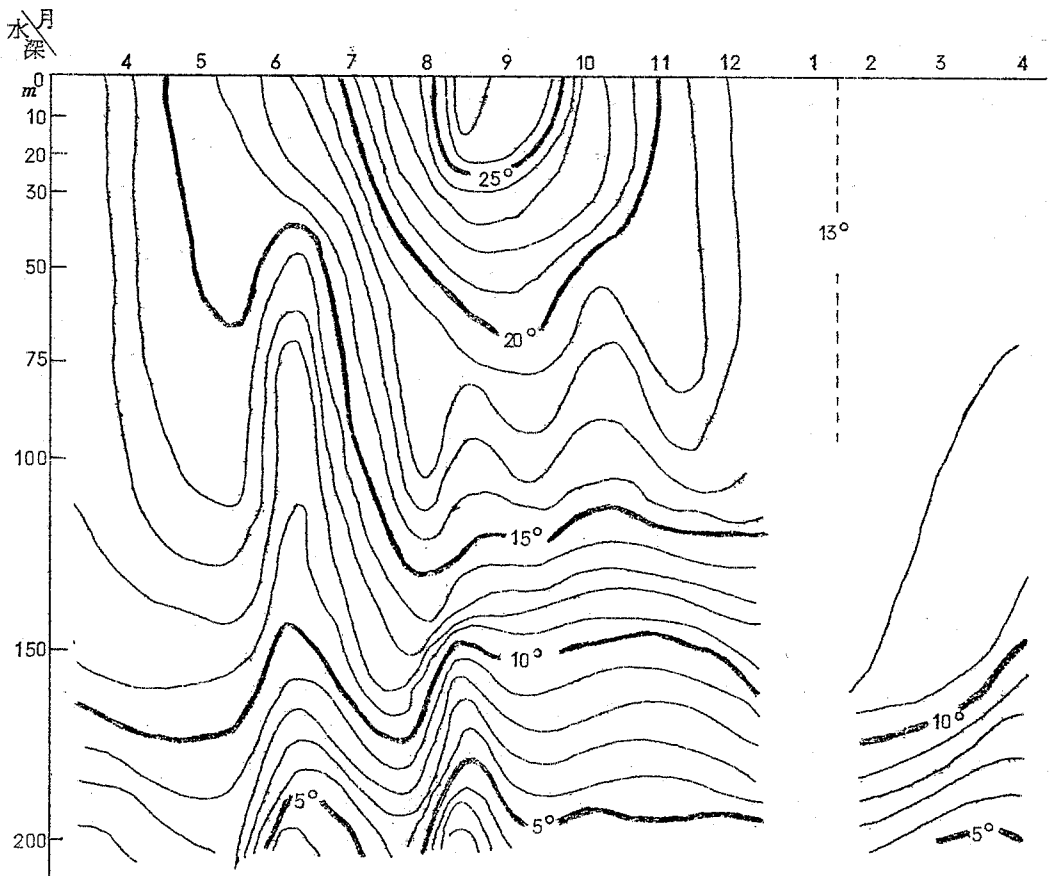
(図3-1)

網代港 st3 水温垂直分布



(図3-2)

網代沖 st3 水温垂直分布



東部海域におけるスルメイカ好漁の要因として水温15°Cの躍層が4月中、下旬から7月上旬にかけて水深50m層から75m層に形成され持続したことに基因するのではないかと考えられた。

### 漁況の推移

4月：東部ではスルメイカ主体、中西部ではハマチ主体の漁

5月：東部では、スルメイカ、ケンサキイカ主体、中西部では、ケンサキイカ、ハマチ主体、トビウオは全域で漁獲された。特徴的な現象としては、東中部海域で、日中ケンサキイカ、稚スルメイカが釣獲された。稚スルメイカは未熟群が主体で6が多かった。

6月：トビウオは県下全域で好漁、ケンサキイカは中西部が東部より好漁、スルメイカは東部沖合が主漁場で活況を呈した。

7月：トビウオはひきつづき好漁であったが、6月に比べ半減した。スルメイカは東部沖合が漁

場の中心で漁獲も東部に限定されていた。シイラ漁も始まり関係漁協に水揚げされたが、西部地区は漁獲量が少なかった。

8月：トビウオ漁は終漁し、ケンサキイカ、シイラ漁が主体となったが、中東部に比べ西部地区がよかった。スルメイカは東部地区で水揚げされたが、このスルメイカは沖合底びき漁船による大和堆での釣獲したもので、今後沿岸漁業に及ぼす影響はかなり大きいものと考えられる。

9月：ケンサキイカは県下全域にわたり好漁、スルメイカは大和堆の操業を含め好漁、シイラは東部を除き昨年より漁悪く、ハマチは中西部において好漁

10月：スルメイカは東部で好漁がつづき、中部でもかなり漁獲があった。ケンサキイカは中、西部でひきつづき好漁、ハマチは中、西部で底刺網によりかなりの水揚げがあった。ヨコワ（クロマグロ）は量的には少なかったが、東部沖合で釣獲された。

11月：スルメイカは隠岐島30海里附近が漁場の中心で極めて低調となりほとんど漁獲がなかった。ケンサキイカは東部で好漁、ハマチは中西部で好漁、ヨコワは東部で10月を上廻る漁があった。

12月：ケンサキイカは東部で、ハマチは中西部で漁獲されたが、量的には少なかった。スルメイカは、来遊量が予想外に少なく漁期のずれ、荒天のため不漁に終わった。

1月：ほとんど見るべき漁なし

2月： ”

3月：全般に低調でほとんど底刺網によるハマチ、タイを主体にした漁で量的には見るべきものなし、西部海域ではコウイカ漁が始まった。

## 漁況の特徴

4～5月：東部海域ではスルメイカ、ケンサキイカが多く釣獲された。特に沿岸域で未熟群が日中釣獲された点は従来見られなかった現象である。中西部海域ではケンサキイカ、ハマチが主体であった。トビウオは全般的に好漁を示した。

6～7月：トビウオ、ケンサキイカともに好漁を示したが、東部海域はスルメイカが釣獲の主体、シイラ漬漁業によるシイラは出足しが悪く必ずしも好漁でなかった。

8～9月：ケンサキイカは全般に好漁を持続した。スルメイカは沖合底びき網漁船による大和堆の大型スルメイカが水揚げされ、関心が次第に高まった。シイラ漁は全般に不漁

10月～11月：東部海域ではスルメイカが好漁を示したが、中西部海域ではケンサキイカが好漁、秋スルメイカ漁は10月初めにはかなり期待されたが、次第に魚群が途切れ隠岐

島30海里沖合に漁場が形成されたため、沿岸域では不漁となった。

12月：冬イカの来遊は見られず不漁のまま終漁した。

### スルメイカ測定結果

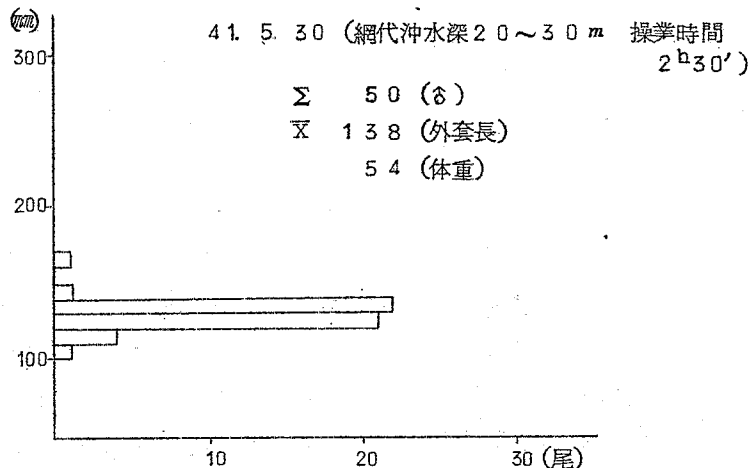
#### (1) 沿岸域 (水深20~30m) のスルメイカ

- イ 釣獲したのは5月30日と6月1日の2日間
- ロ 釣獲した時間は12時前後
- ハ 測定した外套長は、いずれも130~160mmの小型未熟群であった。
- ニ いずれも♂であった。

#### (2) 沖合のスルメイカ

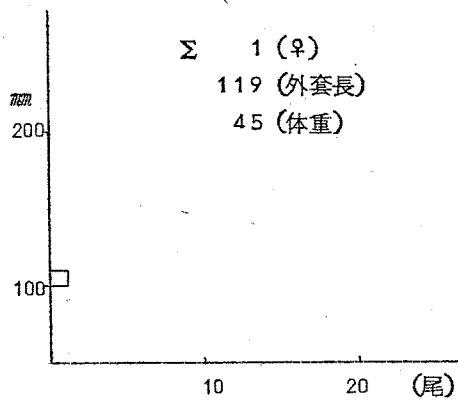
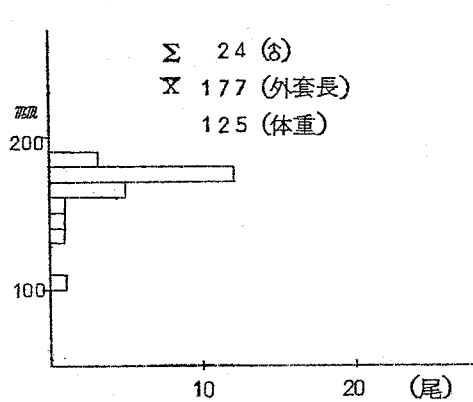
- イ 釣獲したのは5月26日から6月4日まで3回、11月10日から12月18日までの2回
- ロ 測定した外套長は5月下旬から6月上旬は180~200mmであった。前年度との測定結果の対比は日数が少ないので困難であるが、外套長200mm以上のものが少なかった。
- ハ 測定結果ではほとんど♂が主体であったが♀の中に熟卵をもっているものがあつた。
- ニ 11月から12月に釣獲した漁体は尾数が少なく、いずれも小型群で外套長の平均が144mm、85mmのもので、例年この時期に来遊する外套長220mm以上の大型域熟群は見られなかった。

#### スルメイカ

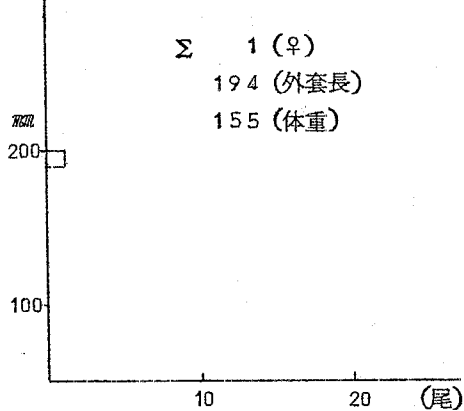
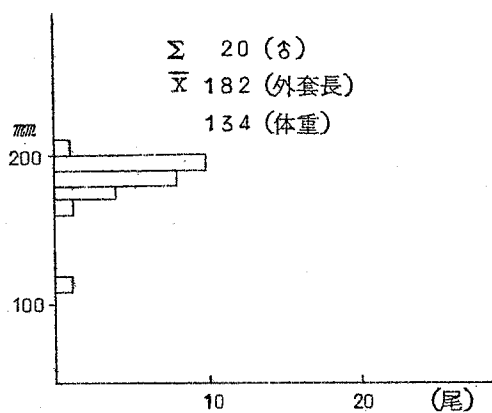




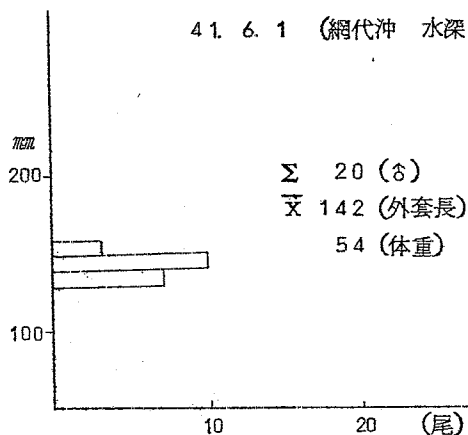
41. 5. 26 (網代沖 N/W 20 海里)



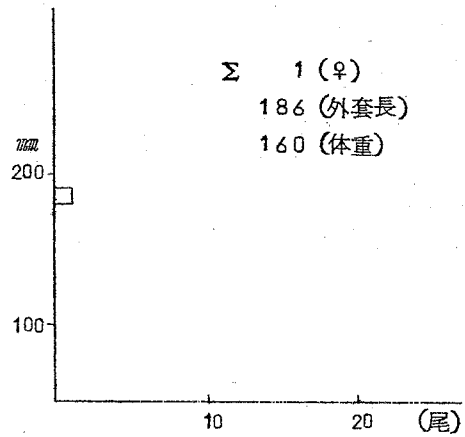
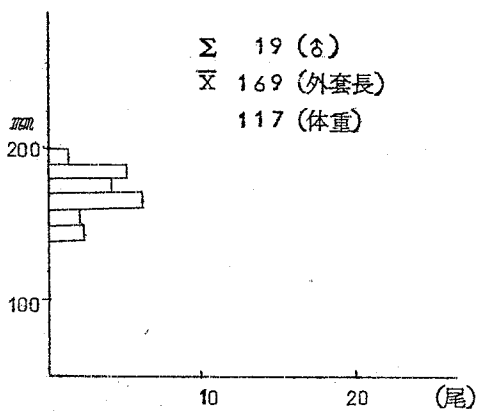
41. 5. 30 (網代沖 N 17~19 海里)



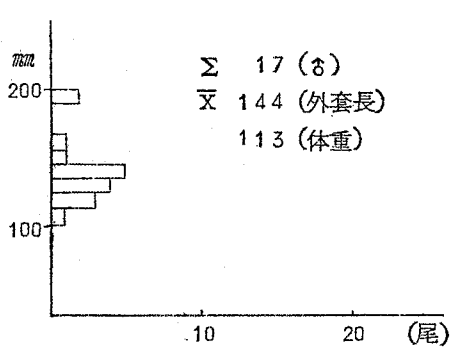
41. 6. 1 (網代沖 水深 20~30 m  
AM11~12)



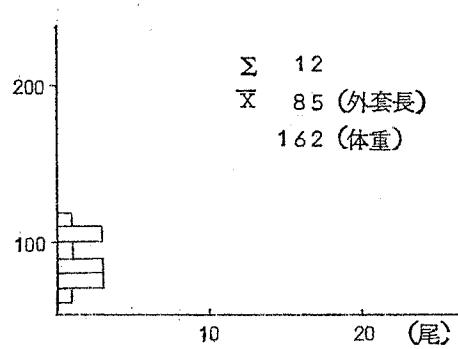
41. 6. 4



41. 11. 10



41. 12. 18



ケンサキイカ

